

社会資本総合整備計画
都市再生整備計画 事後評価シート
綾地区(2期)

平成31年3月

宮崎県綾町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮崎県	市町村名	綾町	地区名	綾地区(2期)			面積	2,400ha
交付期間	平成26年度～30年度	事後評価実施時期	平成30年度	交付対象事業費	577(百万円)	国費率	0.4		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 花時計広場整備、尾立緑地広場整備(展望台)、まちなか景観整備、馬事公苑整備(観光交流センター) 駐車場兼イベント広場整備(綾町文化ホール等公共施設)、花時計広場遊具整備、IT活用プレゼンテーション資料作成、事後評価調査								
			事業名				削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響	
	当初計画から削除した事業	基幹事業	・まちなか公設駐車場				・期間内に合意形成が図れないため本計画から削除。			・本事業の削除を踏まえ指標1の目標値を変更。	
		提案事業	・観光情報案内板、駐車場兼イベント広場整備(錦原運動公園) ・無電柱化整備				・他事業で実施予定のため本計画から削除 ・期間内に合意形成が図れないため本計画から削除。			・影響なし ・本事業の削除を踏まえ指標1の目標値を変更。	
	新たに追加した事業	基幹事業	・道路(南麓・竹野線、上畑・倉輪線)、上畑ふれあい公園、入野橋公園、多目的広場整備(町プール跡地) ・道路(千草通り線)、立町公園				・来訪者の滞在時間延長化などを図る事業として追加。 ・街なか歩行者増加/回遊性向上を図る事業として追加。			・本事業の効果を踏まえ指標2の目標値を変更。 ・本事業の効果を踏まえ指標1の目標値を変更。	
提案事業		・駐車場兼イベント広場整備(てるはドーム駐車場)				・中心市街地の活性化を図る事業として追加。			・本事業の効果を踏まえ指標1の目標値を変更。		
交付期間の変更	当初	-	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				-				
	変更	-									

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	街なか歩行者数	人/年	42,000	H25	60,000	H30	-	48,000	△	あり なし	まちなかの交流施設への集客は確認できるものの、綾の顔づくりは未だ十分に形成できておらず、歩行者数は増加したが目標値までは達しなかった。	平成31年5月頃
	指標2	来街観光客数	人/年	3,957	H24	8,000	H30	-	9,700	○	あり なし	これまでの取り組みによる観光地としての認知度向上や観光拠点の魅力強化(本事業)により、目標値を上回る結果になったと考えられる。	平成31年6月頃
	指標3	住民の‘まちづくり’ワーキング参加の増加	人/年	117	H24	260	H30	-	449	○	あり なし	手順や熟度を踏まえた内容でのまちづくりワーキングにより、着実に住民参加が進んできており、目標値を上回る結果になった。	平成31年6月頃
	指標4	滞在型スポーツ交流団体数	団体/年	385	H25	450	H30	-	445	△	あり なし	スポーツ交流施設の整備等を進めた結果、これまでの取り組みの継続もありスポーツキャンプ等で宿泊した団体数は増加したが、目標値には達しなかった。	平成31年6月頃

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	その他の数値指標2		基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	街なか歩行者数(回遊ルート)の増加率	倍	1	H25			-	1.24			綾の顔づくりは十分に形成できていないが、まちなかの交流施設の機能を高める整備等を実施しており、歩行者が増えてきていると考えられる。	平成31年5月頃
	その他の数値指標2	住民の‘まちづくり’ワーキングから展開しているプロジェクト数	プロジェクト	0	H25			-	14			手順や熟度に配慮して進めたワーキングによって持続的な取り組みになっており、確実にプロジェクトが創出・展開する結果になったと考えられる。	平成31年6月頃

4)定性的な効果発現状況
 ・てるはドームの駐車場兼イベント広場整備を進めたこと等によって、施設の利便性向上や活用の幅を広げることができ(工芸まつりのイベントスペースとしての駐車場活用など)、継続的に活発なてるはドームの稼働状況(年間360日程度の稼働が続いている状況)に寄与したと考えられる。
 ・水上スキーによる活用が活発な広沢ダムについて、「教育スポーツ合宿交流の里」としての本町の取り組みの継続や新たな大会(全国ジュニア水上スキー選手権大会)の開催などに加えて、広沢ダムにアクセスする道路改良による快適性向上などによって、水上スキー場(広沢ダム)の利用者が増加傾向にある状況につながったと考えられる。

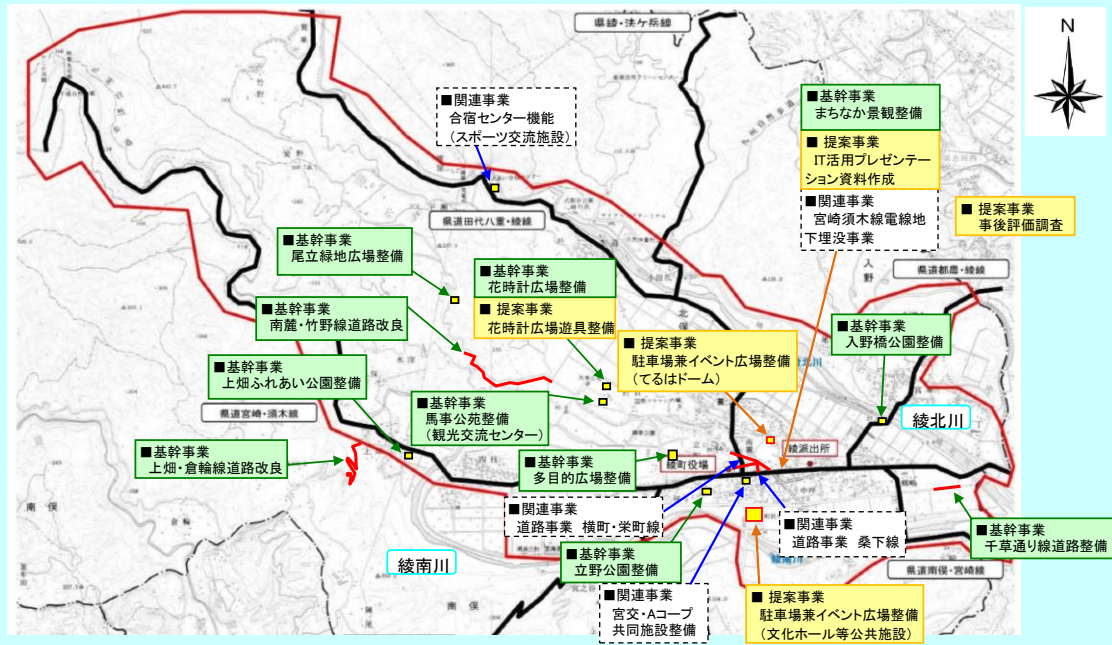
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等	
	モニタリング	住民参加プロセス	持続的なまちづくり体制の構築	モニタリング	住民参加プロセス	持続的なまちづくり体制の構築
	なし	本事業で整備した「入野橋公園」における住民主体の活用	町民主体の継続的なまちづくりワーキングの実施とその中からのプロジェクトの展開	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	- - -	-
				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	- ● -	地域住民による積極的な活用支援を図る。
				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	● - -	まちづくりワーキング/プロジェクトの継続・発展に向けた取り組みを実施する。

様式2-2 地区の概要

綾地区(2期)(宮崎県綾町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
[大目標]未来を築く'自然と人との共生'を見据えた、綾の「美(自然の美、人工の美、人情の美、食の美、まちの美、子育ての美)」を創出するまちづくり ~ 町民と訪れた方が共感し、6感(聴覚、視覚、嗅覚、味覚、触覚、超感覚的知覚)が満足できる「エコパークタウン綾」のまちづくり ~	街なか歩行者数	単位:人/年 42,000 H25	60,000 H30	48,000 H30
	来街観光客数	単位:人/年 3,957 H24	8,000 H30	9,700 H30
[目標1]人と人との交流の拠点としての中心市街地の賑わいを再生するために、地域資源を活用した本町の顔づくりと住民創意の活力のあるまちづくりを目指す。(自然の美、人工の美、まちの美)	住民の'まちづくり'ワーキング参加の増加	単位:人/年 117 H24	260 H30	449 H30
	滞在型スポーツ交流団体数	単位:団体/年 385 H25	450 H30	445 H30
[目標2]本町の豊かな自然を活かした景観・機能を有する拠点の創出・強化等により、町民や訪れる人を心豊かにする「エコパークタウン綾」の景観まちづくりを推進する。(自然の美)	街なか歩行者数(回遊ルート)の増加率	単位:倍 1 H25		1.24 H30
[目標3]町民からの共感を得ながら、町民とともに、町民・訪れた方が6感を満足するきめ細かい持続的なまちづくりを目指す。(人情の美、食の美、子育ての美)	住民の'まちづくり'ワーキングから展開しているプロジェクト数	単位:プロジェクト 0 H25		14 H30
[目標4]6感満足できるスポーツ交流のまちづくりの強化を目指す。(自然の美、人工の美、人情の美、食の美、まちの美、子育ての美)				

○花時計広場の活用状況



○入野橋公園の活用状況



まちなかでのこれまでの取り組みによって観光客や町民の拠点施設への集客等が確認されている。本事業において、スポーツ交流施設の機能を高める事業や空き店舗対策[関連事業]などを進めたことで、指標1の目標は未達成であるものの、歩行者数の増加が確認できる状況にあると考えられる。

・但し、綾の顔づくりという点では、未だ十分に形成できていない状況ではなく、官民連携でまちの交流機能を高める事業も実施に至らなかった点が課題として残った。

・綾の顔づくりを進めたい中で、まちなかを回遊してもらうためにも、観光情報や中心市街地の有機的な情報を案内する機能強化の必要性が挙げられる状況になっている。

・本町のこれまでの取り組みによる観光地としての町外での認知度向上や、本事業による観光拠点の魅力・観光ネットワークの機能強化(本事業による観光客や町民利用者に配慮した整備、新たなイベント開催など)によって、来街観光客数が増加する結果を得られた。

・手順や熟度を踏まえながら継続的に町民および町職員などによるまちづくりワーキングを実施したことにより、着実な町民のワーキング参加とその中から14のプロジェクトの創出・展開する結果に至ったと考えられる。

・本町がこれまで取り組んできた取り組みを礎として、今回の事業では更なる地産地消による地域循環の促進や滞在型の来訪者数を増加させるためにスポーツ交流施設の整備を進めた結果、スポーツキャンプ等で宿泊した団体数の増加が確認できた。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- ・綾の顔づくりに関する取り組みに加えて、街なかの店舗に対する取り組みを継続する。
- ・継続的な週末レクリエーション拠点の形成・強化に向けた取り組みを実施する。
- ・継続的・発展的に、町民・行政協働のまちづくりを推進する。
- ・継続的な地産地消による地域循環/滞在型の来訪者数増加を促進する取り組みを実施する。
- ・まちぐるみでの綾町らしい景観形成・綾の顔づくりと、それを活かしたまちづくりを進める。
- ・観光情報や中心市街地の有機的な情報を案内する機能強化と、町民・来訪者、あるいは町民同士が「出会い・ふれあい・分かち合える」機能を創出・強化する。